

定例会案内チラシと傍聴者が議員通信簿 議会への関心が高まり改革はつづく

片山兵衛 北海道鷹栖町議会議員

どうすれば住民は議会に関心を持ってくれるのか。どうしたら住民は議会に足を運んでくれるのか。議会の広報広聴を主管する立場にいる者として、常にこのことは念頭にある。

傍聴者が増えると議会はよい意味で緊張する。一般質問の数も増えるし、内容もより充実したものになるようだ。妙に力が入る同僚議員を見るにつけても、議会の活性化には住民の参加は欠かせないものだと思える。

二〇一九年一月定例会の中吊り広告風チラシの効果で傍聴者増加に成功し、その勢いをかって成立までにこぎつけたのが傍聴者がつける議員の一般質問の通信簿（二〇二〇年三月定例会）。私たちはこれら一連の活動で二〇二〇年度マニフェスト大賞を受賞することになるのだが、住民の関心が議会に向いたからこそ成し遂げたと言うべきだろう。民主主義の原義をたどるまでもなく住民が主役なのだ。

だから住民に関心をもってもらいたいのだが、それがなかなか容易ではない。

私が議員になる以前から、当議会でも議場コンサートや傍聴者アンケートなど考えられる手は打っていたが、目立った効果は得られていなかった。二〇〇八年から開始した定例会案内チラシの配布も、当時としては結構積極的な試みだったは

ずだが、特筆すべき結果が出ることはなかった。二〇一一年、私が議員になって知ったのだが、議会には議会事務局が主導しているもののようにだ。おどろきと思われるところがあつたとしたら、そんなところに原因があるかもしれない。

私が広報広聴委員長になったとき、活動の主体を委員会に移すことにした。

雑務は恐ろしいほど増えたが、私たちの意図がすつきり反映できるようになった。

その結果というつもりはない。

中吊り広告風チラシの効果は大きかった。

アイデアは日頃見慣れている新聞下段の週刊誌広告の借用だが、悪ふざけと断罪されずに済むぎりぎりを探りながら書いた惹句が受けた。議員名を呼び捨てたところもよかつたらしい。

日曜議会といったところで普段はせいせい一五、六人の傍聴者がなんと一挙に三五名を数えたのだ。

鷹栖町議会が全国的な評価を受けたことで、住民の議会を見る目には相当な変化が起きたし、関心も増したようだ。傍聴者の数も今のところ高止まりと言える。

定例会前に配布するチラシにも今度はどんなことが、といった住民の関心と期待のようなものを感ずる。それは私にとってプレッシャーでもあり

励みでもある。

傍聴者が五つの項目（テーマ設定、追求力など）を五段階で評価する一般質問の通信簿は、議員を評価するといったところが参加意識を刺激するのだろうか、いまもなかなか好評である。もつとふみこめとの意見も聞くと、一角を矯（た）めて牛を殺すの例えもあるから、そこは慎重に進めたい。

これの取り組みが議員間にどのような影響をもたらすか当初懸念もあつたが、案ずるより産むが易しとは言つたもので、議員の間に意外な効果をもたらした。

それまでの議会では他の議員の一般質問に関してはまるで腫れ物のように触れないことが暗黙のルールであつたのに、今では事前の準備会、事後の反省会が有志議員の間で自主的に行われるようになった。

これは望外の展開だったが、考えればそもそも通信簿の取り組みが成立したこと自体が、わが町議会の良識にあつたのだから当然と言えば当然の結果かもしれない。

いずれくる選挙で私たちの良識はどのように試されるのだろう。

ともかく、住民の関心が続く限り、議会は健全を保つと思う。そうして住民の関心を議会に引き付けておくことが当面の私たちの役割だ。

中吊り広告風チラシのようなアイデアはそうそう舞い降りてくるものではないが、住民が参加する理想の議会と言う永遠のテーマに向けて、次の一歩を進めたい。

（※定例会案内チラシと一般質問通信簿は「たかす議会だより孔雀草」No.180令和二年九月定例会号に掲載されており、鷹栖町ホームページから閲覧できます）

へかたやま ひょうえい